

22. 歯周治療学の教育に関する研究 : PCT-ENAモデルをプラークコントロール指導用に改良する方法(一般講演)(東日本学園大学歯学会第11回学術大会(平成5年度総会))

著者名(日)	高松 隆常, 加藤 義弘, 坂東 省一, 木村 庸一, 文田 博文, 大井戸 真理, 小鷲 悠典
雑誌名	東日本歯学雑誌
巻	12
号	1
ページ	139
発行年	1993-06-30
URL	http://id.nii.ac.jp/1145/00007872/

2) 指導法：実習操作の説明文字入りビデオを、実習中繰り返し放映した。

結果および考察

- 1) 電氣的根管長及び解剖学的根管長の一致した割合は5.95%，短い割合は92.8%，長い割合は1.19%であった。
- 2) 本実習は学生の作業長測定法の理解に非常に有効であった。

3) 根管治療の教育用シミュレーションとして有用であった。

4) メーター値38以外根管長測定法の成績と比較することも治療の多様性を理解するのに必要と考えられた。

5) 今後は学生の反復自習できるシミュレーションの利点をいかし、問題点の改善を目指した指導法の開発を検討していく予定です。

22. 歯周治療学の教育に関する研究

—PCT-ENA模型をプラークコントロール指導用に改良する方法—

高松隆常，加藤義弘，坂東省一
木村庸一，文田博文，大井戸真理
小鷲悠典
(歯科保存1)

《研究目的》 歯科疾患の治療・予防にはプラークコントロールが必要で，そのためのブラッシングテクニックは基本的で重要な歯周治療教育の項目である。ブラッシングテクニックを学ぶにはブラッシング毎のプラーク除去状態を観察し，その特徴を知ることが必要となる。従来の口腔内プラークを染色する実習は，新たなプラーク付着に時間がかかるため反復実習するのに適していない。そこで模型の歯面に人工の染色プラークを繰り返し付着し，プラーク除去効果を観察できる方法が必要となる。今回は，歯内治療用PCT-ENA模型をプラークコントロール指導用に改良した結果を報告する。

《プラークコントロール指導用に改良したPCT-ENA模型》 PCT-ENA模型は抜去歯の歯内治療シミュレーションに使用すると，模型歯槽部は削合により変形する。そこで歯槽部はあらかじめ作成したオストロン製咬合面コアで人工歯を配列し即重レジンで修復する。

《プラークコントロール実習法》 エリスロシンと液体

糊を容量比1：1に混合した赤色人工プラークを模型の歯や根面に塗布・温風で乾燥，各種のブラッシングによって除去し，その特徴を観察・比較する。模型をシミュレーションに装着，頬・顎・口唇の有る場合のプラークコントロールについて学ぶ。

《成績および考察》 ①毛尖を用いる方法・毛束の横腹を用いる方法・インターデンタルブラシを用いる方法の何れも，操作について反復自習できた。とくに毛尖の接触部でのプラーク除去が観察できるので，毛束と根面の角度や接触様相の確認が明確にできる。②シミュレーションでは，頬粘膜のため歯ブラシの挿入・操作法に工夫が必要で，患者指導と同じ位置関係にあることも学べる。③患者に適したプラーク除去の練習や患者もプラーク除去を確認しながら練習できる。④学生や患者の理解力や操作の熟練度に応じて，指導しやすい。以上が教育上有効な点を考えられた。